

200
260
181 五



嘉永三年己酉正月

東門日祭

是年正月廿六日上途之月祭祭事
四月十日祭事沙山是古外海祭

三十一

○嘉永二年己酉五月之於有雲和...

併之於彼... 地如求反...

○二百... 二...

○三... 三...

○四... 四...

○五... 五...

○六... 六...

○七... 七...

○八... 八...

○九... 九...

○十... 十...

○十一... 十一...

○十二... 十二...

○十三... 十三...

○十四... 十四...

○十五... 十五...

一後少付と云ふは、
○古くは、
○古くは、
○古くは、

○古くは、
○古くは、
○古くは、
○古くは、

○古くは、
○古くは、
○古くは、
○古くは、

○古くは、
○古くは、
○古くは、
○古くは、

○古くは、
○古くは、
○古くは、
○古くは、

昔は仰、ある日、人、...
○十三日、...

○十三日、...
○十三日、...

○十三日、...
○十三日、...

作被立三ノ 又耳少馬牛木材 杉吹千木木村有也

○十日付し雨多き後第一しと赤穂御旗し吹出御旗
送再進耳受知御旗

○十二日海向受方と赤穂林取海吹時三年向時と
及恩心と一の事あり其原とと向時

○十日付し傳 三年向時と赤穂林取海吹時三年向時と
及恩心と一の事あり其原とと向時

○古之所謂... 此其所以為... 故其所以為...

○七月廿一日、前奥女何仲佐妻の御一階多色
多三輪の事、其妻を七人、何仲佐の御一階多色
多三輪の事、其妻を七人、何仲佐の御一階多色

○二日、何仲佐の御一階多色、其妻を七人、何仲佐の御一階多色

○三日、何仲佐の御一階多色、其妻を七人、何仲佐の御一階多色

○四日、何仲佐の御一階多色、其妻を七人、何仲佐の御一階多色

○五日、何仲佐の御一階多色、其妻を七人、何仲佐の御一階多色

公但中、何仲佐の御一階多色、其妻を七人、何仲佐の御一階多色

○六日、何仲佐の御一階多色、其妻を七人、何仲佐の御一階多色

○七日、何仲佐の御一階多色、其妻を七人、何仲佐の御一階多色

○八日、何仲佐の御一階多色、其妻を七人、何仲佐の御一階多色

○九日、何仲佐の御一階多色、其妻を七人、何仲佐の御一階多色

○古の陰玉境の雨の程至玉雨也 晚女何と至
同初之更月出鏡鏡也

○古の雨下下一輝と乾生干中書父既至三人及
暮音なきより以日終至夜洪範水曰可是等可
述之也大方注也 有日的一輝 付伴佐助記多無為
此古の雨下下一輝と乾生干中書父既至三人及

○古事記... 昔の事... 昔の事... 昔の事...

狭しく一日春夕イモノナキ波口こし
波もあんなでもやり付あト答言ハ
病加控お急しや
勝て無し緒ヲ下トヤ
○十二百百下下百
○十三百百下下百

○十三の晴明
○十四の晴明
○十五の晴明
○十六の晴明
○十七の晴明
○十八の晴明
○十九の晴明
○二十の晴明

○二十一の晴明
○二十二の晴明
○二十三の晴明
○二十四の晴明
○二十五の晴明
○二十六の晴明
○二十七の晴明
○二十八の晴明
○二十九の晴明
○三十の晴明

○三十一の晴明
○三十二の晴明
○三十三の晴明
○三十四の晴明
○三十五の晴明
○三十六の晴明
○三十七の晴明
○三十八の晴明
○三十九の晴明
○四十の晴明

○四十一の晴明
○四十二の晴明
○四十三の晴明
○四十四の晴明
○四十五の晴明
○四十六の晴明
○四十七の晴明
○四十八の晴明
○四十九の晴明
○五十の晴明

○五十一の晴明
○五十二の晴明
○五十三の晴明
○五十四の晴明
○五十五の晴明
○五十六の晴明
○五十七の晴明
○五十八の晴明
○五十九の晴明
○六十の晴明

